

令和2年度 学校関係者評価報告書

課題、改善方策については、学校関係者評価委員の方々に助言、提言していただいた。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・入学者の増加を目指し、ホームページはこまめに更新し、学校情報が停滞しないように心がける。その際、スマホサイトの見やすさ、情報の伝わりやすさを重視する。高校訪問をする機会が限られているため、SNS を使い、地域、年齢、興味におけるターゲティング広報を実施する。

(委員の意見) 現在の高校生は物心ついた時から、インターネット環境が整っており、スマホ、タブレットを小さいときから日常的に使用しているデジタルネイティブである。学校選びに関しても、ネットの存在は大きいものと思われる。また、動画などで雰囲気をつかむことにも長けている。服飾専門学校への入学を希望する学生や社会人は繊細な感性をもっていることが多々あり、ホームページや広告の構成は、洗練された印象を与えるよう、よく考え抜いて作成するべきである。

・教職員の業務の優先順位を決定し、教員の研究時間を確保する必要がある。

(委員の意見) 教職員の無駄な業務は外注したり、IT を導入したりして、教員は研究時間を確保することが望ましい。というのも、ファッションにはこれといった正解はなく、また、表現方法も多様化している。学生が求める、我々には想定外の表現方法にも応えて行けるよう、教員の時間的な余裕は必要である。

・PDCA (計画、実行、評価、改善) サイクルについては、自己評価を教職員で確実に共有し、共通認識のもと実施する。3S (整理、整頓、躰) については、教職員が率先して行い、生徒に指導する。

(委員の意見) 3S (整理、整頓、躰) は、どのような仕事についても言えることで、学生時代に身につけることが出来れば、将来にわたって役立つことである。ひとつひとつは簡単な事だが、すべてを習慣づけるのには根気のいる作業である。あきらめずに指導していくことが肝要である。

・コンテストへの参加を促したり、作品を学校公式 SNS にあげるなどして生徒のモチベーション維持につなげる。

(委員の意見) コンテストに参加するのは、学生のみならず教職員の勉強にもなる。

・学生が思考を深め、解決してゆく実力をつけられるよう、教師はサポートしながら、試行錯誤を促す。

(委員の意見) 沢山の提出物がある中では、早く作品を仕上げ提出することが目的化してしまいがちだが、重要なのは本人の実力が伸びる事であり、学生でいる間に試行錯誤を通して技術と思考を鍛えることは、実社会で役に立つ。教師は、安易に答えを与えず、かといって放置せず、生徒に考えさせ、解決へと導けるよう努力する。

・学生が希望する就職が叶うよう、サポートを強化する。

(委員の意見) そもそもファッションにはどのような職種があり、具体的にどのような仕事をするのか、折に触れ低学年の学生に提示していくことが望ましいのではないか。